

森林交流館における情報発信・普及啓発の取り組み

愛知森林管理事務所 尾張森林官 ○酒向^{さこう} 篤憲^{あつのり}
名古屋事務所 連絡調整官(指導普及担当) まつだ^{まつだ} 恵^{さとし}

要 旨

近年、森林に対する期待は非常に高まっており、地球温暖化防止機能や癒し効果など、色々な分野で注目されてきています。このことから、森林・林業の情報発信基地として開設された、森林交流館の役割は大変重要であると考えます。

これまで、森林交流館を中心に実施してきた取り組みについて紹介し、その成果と今後の課題について報告します。

はじめに

森林交流館は、名古屋市や陶器で有名な瀬戸市等の市街地に囲まれた、瀬戸国有林の中心に建てられています。

瀬戸国有林は標高が約50mから327mの丘陵山地で、スギ・ヒノキの人工林と、シイ・カシなどの照葉樹林が緑豊かな森林を形成しています。また自然休養林になっており、遊歩道も整備されていることから、地域や都市部の住民に憩いの場として親しまれています。

1 森林交流館の取り組み

(1) 施設の概要

森林交流館(写真-1)は、全て国産材で建てられています。

壁にはヒノキやカラマツ、アカマツ、床にはナラやウダイカンバを使用し、場所毎に樹種を変えることにより、木材の特性や違いを体感出来るよう工夫されています。

館内には樹齢1000年近い国内最大級の本曾ヒノキの年輪板をはじめとして、昔使われていた鋸やヨキなどの展示があり、来館者には職員が展示物の説明や自然休養林の案内、周辺施設の紹介を行っています。

(2) 木工クラフト教室

森林交流館では、来館した小学生以下の子供を対象に木工クラフト教室を開催しています。この取り組みは子供達が木に触れることで、その感触や自然に興味を持ってもらうことを目的として実施しています。

ヒノキの輪切り板に色々な形や大きさにカットした木片や木の実(写真-2)を、自由な発想で貼り合わせ、壁掛けなどを作ります。完成した作品は記念に持ち帰ります。

この他、来館記念として木片や木の枝を使用した、職員の手作りのマスコットやブローチ、竹炭等を配布し、森林交流館のPRに役立てています。



写真-1 森林交流館外観

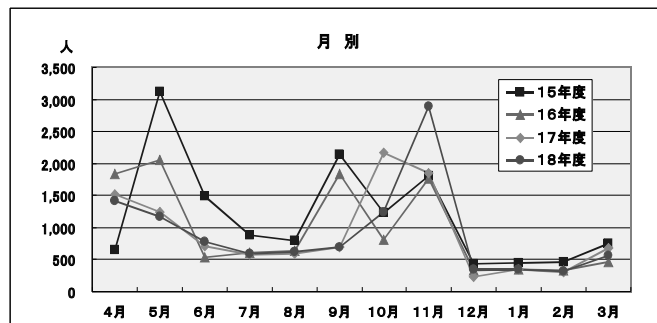


写真-2 木工クラフトの材料

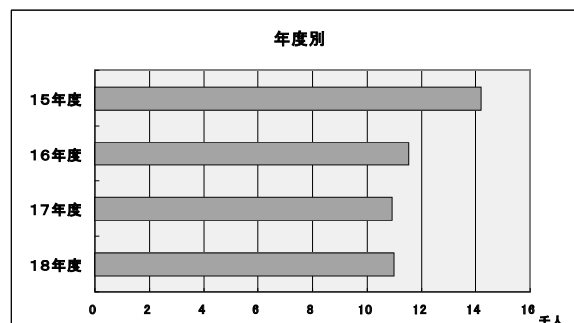
(3) 来館者数の推移

(図－1) は森林交流館を訪れた、過去4年間の来館者数を月別に集計したものです。5月と11月が特に多くなっているのは、新緑や、紅葉の時期である事と、イベントの開催によるものです。

年間では、毎年1万人を超える方々が利用しています。しかし、年度ごとの総来館者数(図－2)をみると横這い状態にあることから、新規来館者とリピーターの拡充が課題となっています。



図－1 来館者数の推移 (月別)



図－2 来館者数の推移 (年度別)

2 周辺施設を利用した取り組み

森林交流館周辺には、駐車場から容易にアクセスできる遊歩道をはじめ、車椅子の方にも気軽に景観を楽しんで頂ける、展望デッキ(写真－3)や林内回廊(写真－4)を作設しています。このことから森林交流館周辺は、多くの人が森林を体感できるフィールドとなっており、その利点を生かして色々なイベントや森林環境教育を実施してきました。



写真－3 展望デッキ



写真－4 林内回廊

(1) イベントの開催

「森林ふれあい講座」は一般の方々を対象に、多くの方々に森林とのふれあいや、森林の魅力を体感して頂く事を目的に実施しているイベントで、名古屋事務所と連携して実施しています。

出席者へのアンケートや職員からのアイディアを基に、「森の音楽会」や「クリスマスリース作り」「炭焼き体験」など、幅広い内容で実施しています。

中でもＪＲ東海とタイアップした「さわやかウォーキング」には大勢の参加者が訪れ、森林交流館も大変な賑わいとなりました。

その他のイベントについても、ホームページや各種会議でＰＲを行い、参加者を募集しています。

また、昨年2回目を開催した「みどりの日フェスティバル」では、瀬戸市や関係団体にもご協力頂いたおかげで、大成功に終わることが出来ました。

(2) 森林環境教育

(図-3)は、過去3年間に実施してきた森林教室の参加人数を、年度別に表したものです。

色が付いている部分は森林交流館周辺をフィールドとして実施した人数です。

森林教室は主に瀬戸市や名古屋市の小学生を対象に、学校からの要請に基づいて実施しています。このような学校は年を追う毎に増加しており、学校教育の中にも、森林や自然環境に対する意識が高まってきていることが伺えます。

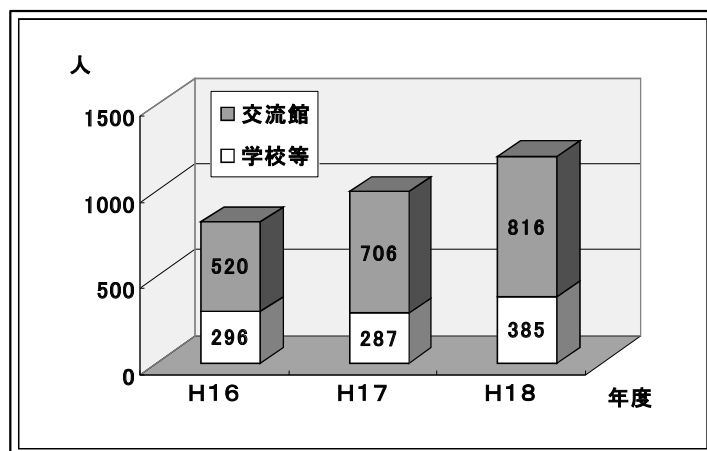


図-3 森林教室参加人数(過去3年間)

実施内容については、森林教室、植物について観察する森林散策、木の輪切り板を使った木工クラフトや丸太切り体験などを実施しています。森林環境教育に熱心な学校については、内容を変えながら数回に渡って実施しています。

今年度も炭焼き体験や鑑賞炭作りを実施しました。

ア 森林教室の継続的实施

瀬戸市の水野小学校は、環境教育への取り組みが非常に熱心であり、今年度は4年生を対象に次のとおり5回の森林教室を実施(一部予定)しました。

・森林の働きの話、実験(6月)

森林の働きや生き物との関わりについて、手作りのフリップを使って説明したり、木の根が山崩れを防ぐ働きを自作した模型(写真-5)やスポンジを使った実験(写真-6)を行い、水を蓄える土壌の機能について学んでもらいました。

・感想文を基に質問会(7月)

前回の森林教室後に、森林についての学習を深める中から出てきた質問に対して2時限を使って説明しました。



写真-5 木の根の働きを現した模型



写真-6 土壌の働きを観察する実験道具

- ・空飛ぶ種の話、模型作り（１１月）

さらに学習を深めたいとの要望があったことから「空を飛ぶタネ」についてスライドを使用して説明し、実際にタネの模型(写真－７)を作り、飛び方の観察を行いました。

- ・マツボックリを使った工作（１２月）

スラッシュマツの松ぼっくりを使用して、木工クラフト（写真－８）を実施しました。

- ・雑木林でネイチャーゲーム（３学期）

学習の締めくくりとして、子供達が普段から接している雑木林で、より自然と親しめる内容の体験学習をしたいとの要望から、ネイチャーゲームの実施を予定しています。



写真－７ 空飛ぶタネの模型作り



写真－８ 松ぼっくりを使用した木工クラフト

イ 実施結果

森林教室実施後に子供達から出された感想には「森林の働きを知って自然を大切にしようと思った」という意見が多く出されていました。

中には「人間は自然を壊すけど、人間がいないと森は育たない」といった森林施業の大切さを書いてくれた子もいました。この事は、「伐採イコール自然破壊」といった風潮がある中で、私たちが目指す森林環境教育が伝わりつつある事のあらわれと考えます。

この水野小学校での取り組みは、これまで森林交流館において実施した「教職員を対象とした森林環境教育研修会」に参加した水野小学校の先生からの要望により実現したものです。こうした繋がりが持てたことは、森林交流館での取り組みが生んだ大きな成果と言えます。

３ 課 題

これまでの取り組みを踏まえて、森林交流館をより多くの人々に利用して頂き、またそこから広がる森林環境教育を始めとした取り組みを充実させていくため、今後の課題として次ぎの点が挙げられます。

（１）森林環境教育の継続的实施

森林教室については内容や企画を変えながら、継続して実施することで、森林や自然に対する子供達の理解が深まります。

水野小学校では先生との打ち合わせにより、継続して実施することができましたが、１回のみで終了していれば、その後の４回で感じたり学んだりする事はありませんでした。森林環境教育を実施し

ていく上でこの差は非常に大きいと考えます。

今後も学校の期待に応え、信頼を得る中で継続して実施出来るようにしていくことが重要です。

（２）施設の充実、受け入れ態勢の確立

森林交流館には見るだけでなく、木のぬくもりを体感できる展示をしています。繰り返し来館して頂けるよう、展示内容を工夫していく必要があります。また、（図－３）からも判かるとおり、森林教室への要望は今後も増加することが予想されることから、多人数でも受け入れ可能な施設の充実と、それに対応できる組織体制の確立が必要と考えます。

（３）市町村、ＮＰＯ団体との連携

今回紹介した、各種イベントについては、現在、ホームページ等により呼びかけていますが、より多くの皆さんに知って頂くためには、地元である瀬戸市をはじめ、ＮＰＯや関係団体と連携しながら幅広く語りかけていく必要があります。今後も機会ある毎に情報交換を行い、森林交流館の存在と各種イベントについてのＰＲを行っていく必要があります。